

PRESS RELEASE

新国立劇場 2023/2024シーズン 演劇

デカローグ 1~4

[プログラムA・B交互上演]

「トリコロール」三部作、『ふたりのペロニカ』で知られる
ポーランド出身の世界的映画監督クシシュトフ・ケシロフスキ。
彼が遺した傑作『デカローグ』を小川絵梨子、上村聡史の演出で完全舞台化！



ノゾエ征爾



高橋恵子



千葉哲也



小島 聖



亀田佳明



前田亜季



益岡 徹



近藤芳正



夏子

2024年4月13日(土)~5月6日(月・休) 新国立劇場 小劇場
2月17日(土)10:00~ 一般前売、全プログラム一斉発売！

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



新国立劇場

NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

誰の人生でも探求する価値があり、秘密と夢があると私は信じているんだ。

——クシシュトフ・ケシロフスキ

「トリコロール」三部作、『ふたりのベロニカ』で知られる、ポーランドの名匠クシシュトフ・ケシロフスキが発表した『デカローグ』。旧約聖書の十戒をモチーフに 1980 年代のポーランド、ワルシャワのとある団地に住む人々を描いた十篇の連作集です。人間を裁き断罪するのではなく、人間を不完全な存在として認め、その迷いや弱さを含めて向き合うことが描かれたこの作品は、人への根源的な肯定と愛の眼差しで溢れています。

十篇の物語は、オムニバス形式のそれぞれが独立した 1 時間前後の作品です。別々の作品でありながら、緩やかにリンクし、実はひそかなつながりを持っているという隠された楽しみもつけることができます。

もともとテレビ放映用ミニ・シリーズとして 1987-1988 年にかけて撮影されたこの作品は、テレビ放映前に「デカローグ5」と「デカローグ6」を劇場公開バージョンに編集し『殺人に関する短いフィルム』『愛に関する短いフィルム』として 1988 年に発表、カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞するなど国際的に高い評価を受けました。その後、テレビシリーズも 1989 年ヴェネツィア国際映画祭で上映、後に世界で劇場公開されました。

スタンリー・キューブリック、エドワード・ヤン、ホウ・シャオシェンなど世界の映画作家が賞賛の声を贈った、この十篇の物語を **2024 年 4 月～7 月、新国立劇場にて完全舞台化**いたします！

上演台本を、ロイヤルコート劇場との共同プロジェクト、劇作家ワークショップ発の作品『私の一ヶ月』（2022 年）の作家、**須貝 英**が担当。演出には、新国立劇場演劇芸術監督の**小川絵梨子**、そして上演時間計7時間半の『エンジェルス・イン・アメリカ』二部作（2023 年）の演出を手掛けたことも記憶に新しい、**上村聡史**の二人があたります。

そして、全篇に登場する、登場人物たちを見守る”天使“と呼ばれる存在。物語ごとに全く違う職業の人間になり、各エピソードの主人公の選択や岐路には関与せず、ただ見守ります。その難役を、小川、上村両名が信頼を寄せる、**亀田佳明**が担います。

全 10 話を大きく 3 つのブロックに分け、4～5 月は『デカローグ1～4』を、5～6 月は『デカローグ5～6』を、そして 6～7 月は『デカローグ7～10』を上演します。

4～5 月に上演する『デカローグ1～4』では、小川絵梨子が演出を担当する1話と3話を「プログラム A」、そして上村聡史が演出を担当する2話と4話を「プログラム B」とし、交互上演いたします。

各話、十戒の戒律に対応しており、1話は「わたしのほかに神があってはならない」、2話は「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」、3話は「主の日を心に留め、これを聖とせよ」、4話は「あなたの父母を敬え」をモチーフとしています。

全話通して、総勢 40 名以上の出演者と共に、公演期間約4カ月という前例のない大規模プロジェクトとなる本作に、どうぞご期待ください。

各話のあらすじ

プログラム A (デカログ1、デカログ3)



デカログ1 ある運命に関する物語



ノゾエ征爾



高橋恵子



亀田佳明

大学教授の父と、世の中で起きることを数学で解いていく息子。彼らを待ち受ける過酷な運命。

大学の言語学の教授で無神論者の父クシシュトフ(ノゾエ征爾)は、12歳になる息子パヴェウと二人暮らしをしており、信心深い叔母イレナ(高橋恵子)が父子を気にかけていた。パヴェウは父からの手ほどきでPCを使った数々のプログラム実験を重ねていたが.....。

演出:小川絵梨子

出演:ノゾエ征爾 高橋恵子

チョウ ヨンホ 森川由樹 鈴木勝大 浅野令子

亀田佳明



デカログ3 あるクリスマス・イヴに関する物語



千葉哲也



小島 聖



亀田佳明

クリスマス・イヴを家族と祝う男の家を突然訪ねてくる元恋人の頼みとは？

クリスマス・イヴ。妻子とともにイヴを過ごすべく、タクシー運転手のヤヌシュ(千葉哲也)が帰宅する。子供たちの為にサンタクロース役を演じたりと仲睦まじい家族の時間を過ごすが、その夜遅くヤヌシュの自宅に元恋人の女性エヴァ(小島聖)が現れ、ヤヌシュに失踪した夫と一緒に探してほしいと訴える.....。

演出:小川絵梨子

出演:千葉哲也 小島 聖

ノゾエ征爾 浅野令子 鈴木勝大 チョウ ヨンホ 森川由樹

亀田佳明

プログラム B (デカログ2、デカログ4)



デカログ2 ある選択に関する物語



前田亜季

益岡 徹



亀田佳明

愛人の子供を身籠った女性バイオリニストと、一人暮らしの医師の対話と選択。

交響楽団のバイオリニストである 30 代の女性ドロタ(前田亜季)と彼女と同じアパートに住む医長(益岡 徹)の二人。ドロタは重い病を患って入院している夫アンジェイの余命を至急知りたいと医師を訪ねる。ドロタは愛人との間にできた子を妊娠していた.....。

演出: 上村聡史

出演: 前田亜季 益岡 徹

坂本慶介 近藤 隼 松田佳央理

亀田佳明



デカログ4 ある父と娘に関する物語



近藤芳正

夏子



亀田佳明

父と幸せに暮らす娘。ある日、娘は父が自分に宛てた手紙を見つける。

快活で魅力的な演劇大学の生徒アンカ(夏子)は、父ミハウ(近藤芳正)と二人暮らし。母はアンカが生まれた時に亡くなった。父娘は友達同士の様に仲睦まじく生活していたが、ある日アンカは「死後開封のこと」と父の筆跡で書かれた封筒を見つける。その中身を見たアンカがとった行動とは.....。

演出: 上村聡史

出演: 近藤芳正 夏子

益岡 徹 松田佳央理 坂本慶介 近藤 隼

亀田佳明

小川絵梨子からのメッセージ

『デカローク』は人生と愛についての連作集です。十篇がそれぞれ独立した作品でありつつ、登場人物はみな同じ団地の住人であることから互いに繋がってもあり、十篇が壮大な一つの物語ともなっています。登場人物たちは皆、どこにでも存在し得る隣人として描かれており、日常を生きる中で一つ一つの選択に悩み、葛藤し、時には失敗をしたり後悔もします。また、どの選択が正しかったのか振り返った時にも分からず、曖昧で孤独な不安の中に取り残される事もあります。各エピソードは十戒をモチーフにしていますが、決して人間を裁き断罪する物語ではなく、寧ろ、人間を不完全な存在として認め、その迷いや弱さも含めて向き合うことを描いた物語となっています。そこには正解もハッピーエンドもないかもしれませんが、人間をそのままに見つめ寄り添う視点の奥底には、人への根源的な肯定と愛が流れているように感じます。世界各地で戦争は続き、日々の生きづらさや、人生を生きることへの不安が簡単に消えることはありませんが、人間という存在への深い愛情と希望、そしてたとえ到達出来なくとも、人がより良い世界に向けて葛藤し続けることの必然と大切さを、この十篇の物語を通して少しでも描く事が出来たら幸いです。

スタッフプロフィール

【原作】 クシシュトフ・ケシロフスキ Krzysztof Kieślowski

1941年6月27日、ポーランド・ワルシャワ生まれ。幼少期は父の仕事の都合で、ポーランド中を転々とする生活を送った。57年に舞台演出家を目指し国立演劇専門学校に入学するが、在学中に映画監督への道を志し、卒業後にロマン・ポランスキーやアンジェイ・ワイダなどを輩出したウッチ映画大学に入学した。66年に初の短編映画を製作。以後、80年までにドキュメンタリーを中心に多くの短編映画を手掛け、政治活動も活発に行う。76年、初の長編劇映画『傷跡』で劇場長編デビュー。2作目の『アマチュア』でモスクワ国際映画祭グランプリを受賞、シカゴ国際映画祭でゴールデン・ヒューゴ賞を受賞した。しかし検閲が厳しくなるとともに、ケシロフスキの活動も制限されるようになる。81年の『偶然』は検閲による上映禁止処分を受け、6年後の87年に公開された。

その後、88年から聖書の十戒をモチーフとした10編からなる長編TVシリーズ『デカローク』を製作。本作の完成前に第5話と第6話を劇場公開用に編集した『殺人に関する短いフィルム』と『愛に関する短いフィルム』を発表。カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞するなど国際的に高い評価を受ける。『デカローク』はヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞を受賞し、映画監督のスタンリー・キューブリックから「重要な映画」と激賞された。

91年にはポーランドとフランスを舞台にした『ふたりのベロニカ』を発表。再びカンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞し、主演のイレーヌ・ジャコブも主演女優賞を受賞した。93年からはフランス政府の依頼でフランス国旗の三色の象徴「自由・平等・博愛」をモチーフにした「トリコロール」三部作を製作する。93年に第1作となる『トリコロール/青の愛』を発表。ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞を受賞、主演のジュリエット・ビノシュは主演女優賞を受賞した。

「トリコロール」三部作を完結させた後、映画監督を引退することを宣言するが、95年に復帰。ダンテの『神曲』をモチーフにした「地獄篇・地上篇・天上篇」三部作の脚本に取り掛かる。しかし、長年患ってきた心臓病の手術を拒否し、96年に心臓発作でこの世を去った。遺稿となった「天上篇」は2002年にトム・ティクヴァ監督により『ヘヴン』として映画化。「地獄篇」「地上篇」は残りをクシシュトフ・ピエシェヴィチが書き上げ、「地獄篇」は05年にダニス・タノヴィッチ監督により『美しき運命の傷痕』として映画化された。「地上篇」はまだ製作されていない。



【翻訳】 久山宏一 KUYAMA Koichi

東京外国語大学卒業。アダム・ミツキエーヴィチ大学にて博士号取得。現在、東京外国語大学など非常勤講師、ポーランド広報文化センターエキスパート。専門はポーランドとロシアの文学・文化。ポーランド語翻訳・通訳。訳書にスタニスワフ・レム『大失敗』、アダム・ミツキエーヴィチ『ソネット集』『コンラット・ヴァレンロット』など。タデウシュ・スウォボジャネク『NASZA KLASA(ナシャ・クラサ)』(文学座・高瀬久男演出)共訳者。



〔上演台本〕 須貝 英 SUGAI Ei

早稲田大学第一文学部美術史学科卒。2007～13 年まで「箱庭円舞曲」に俳優として所属。10 年、演劇ユニット「monophonic orchestra」を旗揚げ。俳優・脚本家・演出家・ワークショップ講師として活動する一方、演劇サークル「Mo'xtra」を主宰。これまでの主な劇作・演出作品に穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主催・高校生と創る演劇『滅びの子らに星の祈りを』、海外ミステリーを原案とした Mo'xtra Produce『グリーン・マダー・ケースxビショップ・マダー・ケース』などがある。そのほか『オリент急行殺人事件』の構成協力、『照くん、カミってる！～宇曾月家の一族殺人事件～』の脚本を務める（共に演出・河原雅彦）。北区王子小劇場主

催佐藤佐吉賞にて 09 年度最優秀主演男優賞を受賞。また、脚本を担当した映画『カラオケの夜』（山田佳奈監督）が門真国際映画祭 2019 にて映画部門最優秀作品賞を受賞。新国立劇場では 22 年 11 月上演の『私の一ヶ月』を執筆。



〔演出〕 小川絵梨子 OGAWA Eriko

2004 年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07 年、平成 17 年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18 年 9 月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に、『ART』『おやすみ、お母さん』『管理人／THE CARETAKER』『ダディ』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。

新国立劇場では『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首―幻に長崎を想う曲―』『星ノ数ホド』『OPUS/作品』の演出のほか、『東京ローズ』『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。



〔演出〕 上村聡史 KAMIMURA Satoshi

2001 年文学座附属演劇研究所入所、18 年に同劇団を退座し、現在はフリーで活動。09 年より文化庁新進芸術家海外留学制度において 1 年間イギリス・ドイツに留学。15 年に第 22 回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第 17 回千田是也賞、21 年には第 29 回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第 56 回紀伊國屋演劇賞を受賞。近年の主な演出作品に、『My Boy Jack』『野鴨-Vildanden-』『ガラスの動物園』『Oslo (オスロ)』『ミセス・クライン』『約束の血』『炎 アンサンディ』『岸 リトラル』『森 フォレ』など。新国立劇場では、『エンジェルス・イン・アメリカ』『斬られの仙太』『オレステイア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。

出演者プロフィール

プログラム A (デカローグ1、デカローグ3)

デカローグ1



ノゾエ征爾 NOZOE Seiji

脚本家・演出家・俳優。劇団「はえぎわ」主宰。1999年に「はえぎわ」を始動。以降、全作品の作・演出を手掛ける。2012年『〇〇トアル風景』で第56回岸田國士戯曲賞受賞。新国立劇場では『ピーター&ザ・スターキャッチャー』『ご臨終』の演出を手掛けた。最近の主な出演にドラマ『仮想儀礼』『拾われた男』『17才の帝国』、連続テレビ小説『エール』、大河ドラマ『いだてん』などがある。

【主な舞台】最近の主な作・演出・出演に『ガラパコスパコス-進化してんのかしてないのか』『物理学者たち』『気づかいルーシー』『ぼくの名前はズッキーニ』など。



高橋恵子 TAKAHASHI Keiko

1970年、映画『高校生ブルース』で主演デビュー。同年、映画『おさな妻』でゴールデンアロー賞新人賞受賞。以降、映画、ドラマに数多く出演。主な出演作に映画『四月の永い夢』『赤い玉』『禅 ZEN』『ふみ子の海』『花物語』などがある。97年『近松心中物語～それは恋～』から舞台へと活動の場を広げ、2003年、『雁の寺』『藪の中』で第10回読売演劇大賞優秀女優賞、04年、『山ほとどきすほしいまま』『藪原検校』『ハムレット』で第3回朝日舞台芸術賞秋元松代賞受賞。

【主な舞台】『ガラパコスパコス-進化してんのかしてないのか』『黄昏』『オリエント急行殺人事件』『サザエさん』『危険な関係』『陥没』『マイ・フェア・レディ』『疑惑』『二都物語』『日本橋』『黴菌』『ザ・キャラクター』『キル』『天保十二年のシェイクスピア』など、新国立劇場では『キネマの天地』『おどくみ』『マクベス』『新・地獄変』に出演。

デカローグ3



千葉哲也 CHIBA Tetsuya

1987年、演劇企画集団「THE・ガジラ」の旗揚げに参加。俳優として舞台のほか、ドラマ・映画にも多数出演。第5回・第20回・第24回読売演劇大賞優秀男優賞・第39回紀伊國屋演劇賞個人賞など受賞多数。演出家として第14回・第16回、第24回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。新国立劇場では『反応工程』『怒りをこめてふり返れ』の演出を手掛けた。

【主な舞台】『連鎖街のひとびと』『マヌエラ』『狐晴明九尾狩』『男たちの中で』『BLUE／ORANGE』『サメと泳ぐ』『髑髏城の七人～season月<下弦の月>』など。新国立劇場では『キネマの天地』『パーマ屋スマイル』『マニラ瑞穂記』『アジア温泉』『焼肉ドラゴン』『カエル』『胎内』『THE OTHER SIDE／線のむこう側』『キーン…或いは狂気と天才…』『新・雨月物語』『カストリ・エレジー』『虹を渡る女』『リア王』に出演。



小島 聖 KOJIMA Hijiri

1989年、大河ドラマ『春日局』でデビュー。99年、映画『あつもの』で第54回毎日映画コンクール女優助演賞を受賞。情感あふれる演劇力と存在感で、映画、舞台、ドラマなど幅広く活躍中。著書に『野生のベリージャム』がある。

【主な舞台】『ビロクシー・ブルース』『Heisenberg ハイゼンベルク』『ラビット・ホール』『もしも命が描けたら』『往転』『この熱き私の激情』『海の風景』『GS近松商店』『正しい教室』『夜中に犬に起こった奇妙な事件』など。新国立劇場では『夜明けの寄り鯨』『誤解』『温室』『アルゴス坂の白い家-クリュタイムストラ-』『やわらかい服を着て』『二人の女兵士の物語』『ゴロヴリョフ家の人々』『なよたけ』に出演。

プログラム B (デカログ 2、デカログ 4)

デカログ2



前田亜季 MAEDA Aki

2000年、映画『バトル・ロワイアル』で第24回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。近年の主な出演にドラマ『デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士』『拝啓、奇妙なお隣さま』『もう一度パパと呼ばれる日』『おもかげ』『家電侍』、映画『川のながれに』『茜色に焼かれる』『一度も撃ってません』など。

【主な舞台】『野鴨-Vildanden-』『雨』『森 フォレ』『パークビューライフ』『Op.110ベートーヴェン「不滅の恋人」への手紙』『燦々』『ブラッケン・ムーア』『プラトノフ』など。新国立劇場では『まほろば』に出演。



益岡 徹 MASUOKA Toru

1980年、無名塾に入塾。以降、映画、舞台、テレビドラマ、ナレーションなど幅広く活動。近年の主な出演に映画『愛にイナズマ』『銀河鉄道の父』『シン・ウルトラマン』『おとなの事情』、大河ドラマ『光る君へ』など多数。

【主な出演】『ザ・ビューティフル・ゲーム』『A-NUMBER』『ザ・ドクター』『Oslo(オスロ)』『ビリー・エリオット』『ブラッケン・ムーア』『奇跡の人』『ショーシャンクの空に』『炎の人』など。新国立劇場では『負傷者16人-SIXTEEN WOUNDED-』『ヘッダ・ガーブレル』『かもめ』『ピカドン・キジムナー』に出演。

デカログ4



近藤芳正 KONDO Yoshimasa

1981年に 劇団青年座研究所に入所。舞台、映画、ドラマなど幅広く活躍。“ラ コンチャン”として自身でも舞台作品のプロデュースを手掛け、2022年には1人芝居『ナイフ』を上演した。近年の主な出演に映画『事実無根』『ナックルガール』『リバー、流れないでよ』、連続テレビ小説『ブキウギ』、YouTubeドラマ『おやじキャンプ飯』シリーズなど。

【主な舞台】『あんまと泥棒』『正しいオトナたち』『髑髏城の七人～season花』『英国王のスピーチ』『ちんけさんと大きな女たち』『ハゲレット』『歌わせたい男たち』『笑の大学』など。新国立劇場では『骨と十字架』『OPUS／作品』『朱雀家の滅亡』『アジアの女』に出演。



夏子 Natsuko

2015年、モデルとして活動を始め、2016年に俳優デビュー。以降、舞台や映像作品など幅広く活躍。これまでの主な出演作に、初主演映画『女囚霊』映画『MY (K)NIGHT マイ・ナイト』ドラマ『時をかけるな、恋人たち』『親愛なる僕へ殺意をこめて』『私の家政婦ナギサさん』、『偽装不倫』などがある。ドラマ『アイゾウ 警視庁・心理分析捜査班』では地上波連続ドラマ初主演を務めた。

【主な舞台】『My Boy Jack』『楽園はどこだ』『ヴィンセント・イン・ブリクストン』『赤鬼』『私たちは何も知らない』などがある。新国立劇場では『東京ゴッドファーザーズ』に出演。





亀田佳明 KAMEDA Yoshiaki

文学座所属。劇団公演『モンテ・クリスト伯』にて初舞台以降、舞台を中心に活動。これまでの主な出演に映画『検察側の罪人』、連続テレビ小説『らんまん』など。『タージマハルの衛兵』『ガラスの動物園』にて第54回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『パートタイマー・秋子』『ブレイキング・ザ・コード』『ライカムで待っとく』『ダウト～疑いについての寓話』『森 フォレ』『ピサロ』『岸 リトラル』など。新国立劇場では『終わりよければすべてよし』『尺には尺を』『アンチポデス』『リチャード二世』『タージマハルの衛兵』『ヘンリー五世』『マリアの首―幻に長崎を想う曲―』『ヘンリー四世』『三文オペラ』『るつぼ』に出演。

公演概要

【タイトル】『デカローグ 1～4』

原作：クシシュトフ・ケシロフスキ／クシシュトフ・ピエシェヴィチ

翻訳：久山宏一

上演台本：須貝 英

演出：小川絵梨子／上村聡史

美術：針生 康

映像：栗山聡之

照明：松本大介

音楽：阿部海太郎

音響：加藤 温

衣裳：前田文子

ヘアメイク：鎌田直樹

演出助手：長町多寿子／西 祐子・中嶋彩乃

舞台監督：濱野貴彦／清水浩志

主催：新国立劇場

後援：ポーランド共和国大使館 / ポーランド広報文化センター

Supported by Embassy of the Republic of Poland / Polish Institute in Tokyo

【キャスト】

プログラムA

<デカローグ1>

ノゾエ征爾、高橋恵子／チョウ ヨンホ、森川由樹、鈴木勝大、浅野令子／亀田佳明

<デカローグ3>

千葉哲也、小島 聖／ノゾエ征爾、浅野令子、鈴木勝大、チョウ ヨンホ、森川由樹／亀田佳明

プログラムB

<デカローグ2>

前田亜季、益岡 徹／坂本慶介、近藤 隼、松田佳央理／亀田佳明

<デカローグ4>

近藤芳正、夏子／益岡 徹、松田佳央理、坂本慶介、近藤 隼／亀田佳明

【会場】 新国立劇場 小劇場

【公演日程】2024年4月13日(土)～5月6日(月・休)

4月	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
13:00	A	B	A	休演日	B	A	B	B	A	B	休演日	A		
17:30	B	A							A					
18:30														

4月	25	26	27	28	29	30	5月	1	2	3	4	5	6	
曜日	木	金	土	日	月・祝	火	曜日	水	木	金・祝	土・祝	日・祝	月・休	
13:00			A	B	B	休演日	13:00			A	B	B	A	
17:30			B	A				17:30			B		A	
18:30	B	A						18:30	A	B				

※開場は開演の30分前です。

【料金(税込)】A席 7,700円／B席 3,300円

【一般発売】2024年2月17日(土)10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **【Z席1,650円】** Z席(各日10席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **【当日学生割引】** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

* **【各種割引】** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】

プログラムA

日時:4月24日(水)終演後

出演:ノエ征爾、高橋恵子／千葉哲也、小島 聖

プログラムB

日時:4月19日(金)終演後

出演:前田亜季、益岡 徹／近藤芳正、夏子

司会:中井美穂(両日とも)

入場方法:本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。

一挙観劇でおトク! セット券も販売!

●フルセット券(公演プログラム引換券、1枚付き!) **31,500円**

正確の
約18%OFF

●プログラムA、B、Cセット券 **20,100円**

正確の
約13%OFF

●プログラムC、D、Eセット券 **20,100円**

正確の
約13%OFF

●プログラムA、Bセット券 **13,800円**

正確の
約10%OFF

●プログラムD、Eセット券 **13,800円**

正確の
約10%OFF

『デカログ 1～10』 公演概要



『デカログ 1～10』

【公演日程】2024年4月13日(土)～7月15日(月・祝)

デカログ1～4(プログラムA&B 交互上演):2024年4月13日(土)～5月6日(月・休)

デカログ5～6(プログラムC):2024年5月18日(土)～6月2日(日)

デカログ7～10(プログラムD&E 交互上演):2024年6月22日(土)～7月15日(月・祝)

【会場】新国立劇場 小劇場

【原作】クシシュトフ・ケシロフスキ/クシシュトフ・ピェシェヴィチ

【翻訳】久山宏一 【上演台本】須貝 英 【演出】小川絵梨子/上村聡史

【公式 HP】<https://www.nntt.jac.go.jp/play/dekalog/>

【一般発売日】2024年2月17日(土)10:00～

デカログ5～6(プログラムC) 2024年5月18日(土)～6月2日(日)

プログラムC(デカログ5、デカログ6)



デカログ5 ある殺人に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:福崎那由他、渋谷謙人、寺十 吾

斉藤直樹、内田健介、名越志保、田中 亨
亀田佳明



デカログ6 ある愛に関する物語

演出:上村聡史

出演:仙名彩世、田中 亨

寺十 吾、名越志保、斉藤直樹、内田健介
亀田佳明

デカログ7～10(プログラムD&E 交互上演) 2024年6月22日(土)～7月15日(月・祝)

プログラムD(デカログ7、デカログ8)



デカログ7 ある告白に関する物語

演出:上村聡史

出演:吉田美月喜、章平、津田真澄

大滝 寛、田中穂先、堀元宗一郎、笹野美由紀、伊海実紗
亀田佳明



デカログ8 ある過去に関する物語

演出:上村聡史

出演:高田聖子、岡本 玲、大滝 寛

田中穂先、章平、堀元宗一郎、笹野美由紀、伊海実紗
亀田佳明

プログラム E(デカログ9、デカログ10)



デカログ9 ある孤独に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:伊達 暁、万里紗、宮崎秋人

笠井日向、鈴木将一郎、松本 亮、石母田史朗

亀田佳明



デカログ10 ある希望に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:豎山隼太、石母田史朗

鈴木将一郎、松本 亮、伊達 暁、宮崎秋人、笠井日向

亀田佳明